

平成 27 年度 第 2 回 市長と語ろう！タウンミーティング 議事録

開催日時 平成 27 年 5 月 31 日（日） 午前 10 時～11 時 30 分

開催場所 笠間支所 2 階大会議室

参加者 22 人

《フリートーク（意見交換）》

- 1 市民参加型のイベントについて
- 2 郷土愛の醸成について
- 3 子どもの教育環境と医療環境について
- 4 箱田小の利活用について
- 5 井筒屋の跡地について
- 6 筑波海軍航空隊跡地について
- 7 笠間城について
- 8 長期滞在できる安い宿泊施設について
- 9 貸別荘について
- 10 笠間焼の販路拡大について
- 11 市民実感度調査について

《内容》

1 市民参加型のイベントについて

【意見等】

笠間のまつりで光のオブジェの数が減ってきている。なぜ数が減ったのか考えたことはあるのか。イベントが終わると、盛大にできて良かったということになる。しかし、よく考えて見ると、衰退している部分もある。道の市についても 1 2 回目になるが、実行していく方は大変な苦労がある。市からの応援をいただいているのは事実だが、まだまだしていただくことがあるのかと感じている。具体的に言うと、道路を通行止めにするにも、道路申請に大変さがある。市の方で、まとめて通行止めの申請などを対応いただければ、楽になる。市として、市民が参加しやすいような体制を考えていただければと思っている。

【回答】

市が行っているイベントというよりも、地域のいろいろなイベントと市の関わりについてのご意見だと思います。笠間のまつりは 2 5 回になります。約 7 0 0 万円掛けています。ねぶた作りだけでなく、本場青森の方をお呼びする経費などにお金が掛かります。2 5 回目を迎えますが、曲がり角に来ているのも事実です。光のオブジェを各団体、町内会ごとに作っていただき、盛り上げていこうということでスタートしました。実際にはオブジェ

を作るとなると負担が掛かり、参加団体、町内会は、限られているのが現状です。

そもそも、笠間のまつりが今の形で良いのかという議論もあります。他から借りてきたものでは根付かないのではないかという意見、24回行ってきて継続していけば、徐々に根付いて行くのではないかという意見もあります。どのような形で継続していくか苦慮しています。

笠間には祇園があるから、祇園を盛り上げていったらという意見もあります。今後のあり方については、実行委員会とよく話し合いをして進めていきたいと思います。

道の市については、町内会が集まって課題を整理した中に、市も入って整理をしていくことも必要と思っています。

市とイベントの関わりをどうしていくかは、イベントを継続、発展させる上でも、必要だと思います。ただ、あまり市が関与してしまうと自主性がないイベントになってしまいますので、その辺の兼ね合いを見ながら対応していきたいと思っています。

2 郷土愛の醸成について

【意見等】

人口減少を防ぐには、社会的な現象でいうと、転入者を多くして、転出者を少なくするしかない。転出者を少なくするには、高校を卒業しても市内に住み続けるという意識を持たせるしかない。中学生の時に、人口減少の現状を教育というか知らせる必要がある。5年先と考えると難しいが、中学生の時から、笠間を考えさせるような教育をしていくべきだと思う。

【回答】

子どもの頃から郷土愛を育てるべきだろうという意見は多いです。大学に進学しても、向こうで就職せずに呼び戻すことだろうと思います。そのためには、雇用の場の企業誘致等が必要だという意見がありまして、総合戦略の中ではそういう観点も非常に大切だと思っています。郷土愛の教育は行っていますが、Uターン就職までつながらない部分もございますので、雇用の場の確保とあわせて行っていきたいと思っています。

3 子どもの教育環境と医療環境について

【意見等】

首都圏から転入してもらうには、子どもの教育と医療の要素が大きいと思う。もちろん子育ての環境もあると思う。小学校が統廃合してしまい、田舎に住もうという人はいないのではないか。医療に関しては、市内に病院はたくさんあるが、必要なのは小児科だと思う。

【回答】

特に若い人たちが求めていることの一つとして、教育の充実があります。教育レベルをどのようにアップさせていくかということも課題です。また、医療については、小児科は医師の確保が最大の課題です。産科は市内にあるので、他の自治体よりは恵まれています。小児科は一つの課題になっています。医療、教育分野というのは重要ですので、総合戦略の中できちんと位置付けしていきたいと思います。

4 箱田小の利活用について

【意見等】

箱田小が統廃合され2か月が過ぎた。順調に進んでいるということは、なによりと思うが、廃校になった校舎をどのように活用していくかというのが重要だと思う。過日、校舎に入って仕事をしたが、子どもたちから見れば自分たちの学校ということで、2か月前まで一生懸命やっていた。しかし校舎の中は整然としていない。誇りを持てる学校だったということにするには、それ相応の対応が必要と思う。前に提出した箱田小の利用について、連名で要望書を出したが、あの内容について、どのように考えているか聞きたい。

【回答】

廃校になった学校は4校ございます。佐城小については、認定子ども園として計画を進めています。箱田小、東小は、まだ利活用については決まっていません。まず残りの3校を何らかの形で使うことがあるか整理をしています。市でどういう使い方をするのか、それとも民間にも投げかけてみるのか、それでも利活用がない場合には、売りに出すのか、まず第1段階として、市として3校を何らかの形で使うことを検討、整理しているところです。

例えば、笠間地区にも、歴史的なものがあります。それは友部地区、岩間地区にもあります。歴史的な貴重な財産をどこか1か所にまとめて、きちんと保管しておきたいという思いがあります。新しい建物を造るのではなくて、既存の建物を活用して公開していくことも一つの考え方です。もう少し時間をいただければ、方向性は決まると思います。地域の歴史を後世に伝えるということは必要なことだと思っています。

5 井筒屋の跡地について

【意見等】

笠間が日本でも有数の観光地になってもらいたいと思っている。トリップアドバイザーの調査によると、日本の観光地の1番の人気スポットは伏見稲荷の千本鳥居と聞いている。そこをくぐる非日常的な空間が、海外の方に受けている。また豊川稲荷では、千本のぼりが非日常的な空間でスポットになっている。井筒屋から裏手にかける辺りに、千本鳥居、一万本鳥居みたいなものがあり、大石邸、坂本九さん宅、日動美術館と街道になって、それが門前通りを通過して、巨大な稲荷パークのような感じにする。ここ数年という単位では

なく、50年後、100年後にそれが笠間の一つの文化財になるような長期的に見た笠間の新しい観光スポットを作るような形で井筒屋の跡地を使っただけであればと思っている。そこで、井筒屋の跡地をどのように活用されるのか伺いたい。

【回答】

地方創生の観点で考えますと、観光による交流人口の拡大というのは、非常に重要です。笠間にはその要素があると言われていています。現に観光客の拡大は図られています。もちろん、更なる進化をさせていくことは当然必要です。観光の拠点づくりとして行っているのが、井筒屋から門前通りの整備です。門前通りは道路が7割ぐらい終わり、景観整備の意思統一を図っているところです。それに合わせて井筒屋については、3階建は歴史的な建造物なので残して、裏は全部取り壊しを行っています。今年は耐震設計と改修設計を発注する予定です。3階建については、前に空間を作って、1階は通り抜けできる建物として改修をしていきたいと思っています。2階3階は会議室、歴史を紹介するようなコーナーとして整備をしていきたいと思っています。1階は観光情報の案内所を整備していくという考えもありますが、まだ決定していません。

また、建物から遊歩道を造って、大石邸から日動美術館まで抜けて、駐車場までいく一つのラインを計画しています。井筒屋の裏は、民間活力を導入して整備していきたいと思っています。農産物等を使った加工と販売。レストラン、カフェを整備していければと思っています。理想は、第1弾の整備が終わった後に、にぎわいが出れば、宿泊施設などの誘致ができれば、良いなと思っています。井筒屋については、最終的な取りまとめをしており、議会に報告をさせていただいたあと、門前通りを含めて、市民を対象に説明会を行ってきたいと思っています。

6 筑波海軍航空隊跡地について

【意見等】

観光の可能性があると感じている筑波海軍航空隊跡地のことですが、世界で初めて体当たり専門の兵器の開発が決められたときに、最初の志願者が出た神風の発祥の地という証言もある。教育観光は、広島、沖縄、鹿児島を知覧など西日本に集中している。関東の中で、教育観光として、とても需要が望める可能性がある場所だと思っている。今はロケ地中心の展示になっている。今後、市としての方向性をお聞きしたい。

【回答】

筑波海軍航空隊跡地は、現在も市の方で運営協力していますが、基本的に県の施設です。観光面での財産のほかに、建物の歴史的な価値を考えると、市としては、しっかりと保存していきたいというのが考えです。ただ、保存する費用をどこに求めるかが、一つの課題になっています。全額を市が負担するというわけにもいかないと思います。

7 笠間城について

【意見等】

笠間は文化的なものが非常にたくさんある。現時点で生かし切っているかということ、古い状態のまま放置されたり、管理状態が悪くて取り壊さなければならなくなったり、そういったものがあると思う。今年の陶炎祭は50万人を超え、年々観光客は増加しているが、50万人の方々が、そのあと来てくれるか。

例えば、佐白山周辺ですが、民有地があるということで管理が難しいと聞いている。市と地元の協力、あるいは個人的な協力を得て、笠間のまちを創生するのであるならば、笠間城があったという歴史を見忘れているような感じもする。イベント以外の平日に笠間を訪れたい人を増やしていくにはどうしたら良いか。その辺を工夫されて、みんなで話し合っ、本当に古い良いものは残していくという環境が必要ではないか。

【回答】

地方創生は、地域資源を生かすという観点も非常に重要だと思います。笠間の地域資源というのは、一つには歴史であり、焼き物であると思います。そういうことも地域資源を生かす方法だと思います。佐白山の山城ですが、専門の先生からもご意見をいただいております。現在、国指定の文化財にすべく手続きを進めています。城本体の復元まではいかないですが、本格的修復を行う予定です。穴戸を含め、この辺は歴史的に古い街なので、偉人の方もいて、笠間の偉人たちという本を作って学校の授業で使っています。

また焼き物については、笠間の大きな基盤産業であり、観光資源でもあります。イベント以外で観光客を呼び込むために焼き物をうまく活用することは、平日観光客を呼び込める一つの要素と思っています。

8 長期滞在できる安い宿泊施設について

【意見等】

最近、若い人と交流することがある。外国から来る人も何人かいる。例えば、1か月ぐらい牛久市の親戚の家に泊って、私のところで陶芸の勉強をしている。宿泊するときは、1～2日なら市内の宿泊施設を紹介している。研修絡みで来た場合は、宿泊費が高くてついでしまうので躊躇してしまう方がいる。難しい課題だが1週間あるいは1か月など、長期にわたって焼き物、地元の文化的なものを勉強したい場合の安い宿泊施設がない。

【回答】

宿泊施設は一つのネックになっています。長期間泊るのもしかり、団体で50人、100人などは井筒屋、山乃荘が受け皿になっていたのがなくなってしまいましたから、笠間にとっては大きな損失です。なかなかいい案が出ていません。大きな課題として捉えてい

ます。

9 貸別荘について

【意見等】

別荘といえば軽井沢というのは一般的だが、笠間に別荘を建てれば、発展しないかと思っている。

【回答】

市の方で別荘を造る計画はありません。民間でもそのような動きはありませんが、本戸地区にクライנגルテンがあります。賃貸契約が終わった後に周辺に家を建てて住んでいる方が10数軒います。笠間に住む方も、少しずつ現れています。別荘を新たに建てるのではなく、古い農家を改修して、借りてみたいとか、そういう希望が多いです。そういう意味で、貸別荘ではなく、借りて住むなどの需要は高いので、この地方創生でも取り組んでいきたいと思っています。

10 笠間焼の販路拡大について

【意見等】

焼き物の産地を見て来たりするが、ほかの陶芸の産地は外商が強い。海外も含めて。笠間は組織で笠間焼を外に広げて発信していくところが欠けているように思う。市外で自分の作品を紹介してもらうシステムが、今のところ笠間には存在していないので、その点をどのように考えているのか伺いたい。

【回答】

笠間焼は地場産の観点からも、観光の観点からも、今後も市として支援をしながら、振興していかなければならないと思っています。課題は作り手はいるが、どうやって売るかということだと思っています。

陶炎祭は観光客が訪れるので売れるが、普段は作家個人が自分で作って、市内のお店に卸して販売しているのがほとんどです。外商を専門とする会社、個人がいないことは、我々も認識しています。組合などと協力しながら、販路の拡大を行っていくことが必要と思います。

11 市民実感度調査について

【意見等】

市民実感度調査の総括はしているのか。

【回答】

3年ほど前から行っています。数値的に低いものは、いくつかありまして、もちろん高いものもあります。数値的に低いものの課題を整理しながら、どう解決していくのか検討しています。市民実感度調査の数値は、我々が思っているより低いと感じるところ、逆に高いと感じのところもあります。重要な統計指標なので、しっかり捉えていきたいと思えます。